



第七十八号

奥田雅楽之一稽古場おさらい会

メルマガnoichi78号、今月は「奥田雅楽之一稽古場おさらい会」。

奥田雅楽之一稽古場も、開軒から8年の歳月が流れました。門下生にとって楽しく、有意義なお稽古場であることが、奥田雅楽之一稽古場のモットーです。

◎会主 奥田雅楽之一より◎

奥田雅楽之一稽古場は、私が主宰する東京のお稽古場のことで、平成二十一年の開軒から、早いもので、今年で九年目を迎えております。お稽古場とは、通う者にとつての学びの場であると同時に、師匠と弟子、また門人同士の人間関係が育まれる社交の場であるところに大きな価値があります。技芸を磨くという共通の目的を持った同志が集まつて、大切な仲間となつていく時間は、主宰する者にとつて一番の喜びでもあります。

先日、当稽古場は本年のおさらい会を東京・赤坂で行いました。今までも様々な形で発表の場を設けて参りましたが、今回は、古典作品を中心とした真剣勝負をテーマとし、出演する方々のノルマを高く設定しました。出演者は緊張

もしたでしょうし、少しは恥をかいたかもしれません、それぞれにとつて大きな進歩になったと思います。「誰もいない森で大木が倒れたら、音がするののか」という哲学者の言葉があります。答えは「音はしない」のだそうです。芸は人に認識してもらわなければ意味がない。披露しなければ価値がない。私は常にそのような信念を持つて指導しております。現在、私の稽古場では、私が専門とする三弦、箏、胡弓のお稽古をしています。中でも、近年は三弦を学びたい人が増えています。この傾向は、東京だけでなく全国的な流行であり、私自身の演奏スタイルが与えるイメージもあるとは思いますが、一番の要因は、愛好者の関心が箏曲の元来の形である「地唄」へ原点回帰していることだと思います。やはり歴史ある伝統芸能を学ぶ者は、古いものを学ぶことで、技芸も精神も磨かれていくものです。

◎演奏会のご案内◎

「第二十回 福田栄香の会～稀曲の伝承～」

日にち：12月4日(月)

開場：18時

開演：18時30分

入場料：5千円

出演曲：水の玉

「第十七回 曠の会」

日にち：12月17日(日)

〈第一部〉

開場：12時30分

開演：13時

出演曲：松竹梅

〈第二部〉

開場：15時

開演：15時30分

出演曲：竹生島

入場料：各4千円 一部二部共通6千円

会場はいずれも、紀尾井小ホールとなります。
チケットご希望の方、お問い合わせ等ご興味ある方はメルマガ《noichi》に返信・ご連絡いただけますと幸いです。



◎おさらい会に参加して◎

正派邦楽会・師範 女性

今、私には嬉しいことが二つあります。一つは、十二月にお稽古場として初めての演奏旅行をすることです。もう一つは、子供のお弟子さんがいることです。最年少は小学一年生の女の子で、毎回の稽古を本当に楽しみにしてくれているようです。子供から大人まで、幅広い世代が共存し、同じ舞台上に立っているのもこの世界の魅力の一つだと思います。私の娘もいずれお稽古を始める日が来るのですが、身近に先輩がいてくれることは、親としても心強いことです。読者の皆様にとつて面白い内容とも思いませんでしたが、私にとつて大切な稽古場の活動の一端をお見知り置き頂きたく、今回は、このような形で失礼致しました。

去る十一月二十三日、奥田雅楽之一先生稽古場のおさらい会に初めて参加させて頂きました。出演の機会をお与えくださった先生、そして、会の設営・準備にご尽力いただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。私は、昨年十月に転勤で関東に参りましたが、当初は慣れない生活環境に加えて、残業続きで何日も稽古が出来ない状態にあり、辛く悶々とした日々が続いていました。ご縁あつて雅楽之一先生のお稽古場に通う機会に恵まれ、先生のお人柄や明るく楽しい稽古場の雰囲気、塞ぎこんでいた気持ちが癒え、少しずつ芸事に対して前向きに考えられるようになりました。おさらい会では、大好きな《吾妻獅子》を選び、先生と稽古場の皆様への感謝の気持ちを込めて弾きたいと思いましたが、本番はミスもありましたが、良きパートナーに助けて頂き、楽しく演奏することが出来ました。来年のおさらい会を目標にこれから益々精進いたします。本当にありがとうございました。

雅楽之一先生の温かい言葉に励まされてお稽古場に通うようになり、もうすぐ二年になります。遠方より通う私は飛行機が飛ばなかったり、台風で帰れなくなったりと毎回ドキドキの綱渡り状態。それでもお稽古場に辿り着くと、同志とも言える心から邦楽を愛するお仲間を支えられ、幸福な時間を過ごしています。

上達は人其々と自分に言い聞かせながらも出来る限りの練習をして毎回のお稽古に臨み、少しずつ積み重ねた成果を今回おさらい会で皆様に聞いていただきました。お三弦での舞台はこれが初めて…。あまりにも恐れ多く、逃げ出したい気持ちを抑え、もともとお稽古に通えることも奇跡ならここに居られる自分も奇跡なのだと思いつつ曲を弾きました。他の方々の素晴らしい演奏とは比べることも出来ませんが、戴いた拍手を忘れずこれを第一歩と思いつつも自分らしく成長していきたいと思えます。

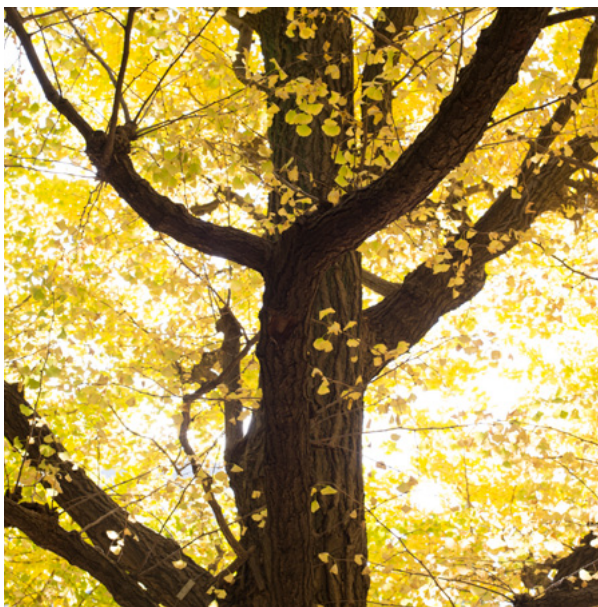
◎番頭より◎

平成二十一年の奥田雅楽之一稽古場開軒時から通い続け、途中から番頭役を務めています。これまでに様々な事情で離れてしまった方もいれば、新たに通い始めた方もいます。そのような中で、今のメンバーは熱心な方が多く、尺八の先生に入っていたく仕上げ稽古では一舞台見せてもらったかのような素晴らしい演奏のこともあります。ただ、それぞれのペースで成長している方々の中で、おさらい会をやるとなった時に他の人のレベルの高さに気後れするメンバーがいたのも事実です。しかし、「おさらい会」ですのでそれぞれが日頃の成果を発表する場であれば、レベルは関係ないと思います。そして何より、普段顔を合わせることに少ないメンバーが一室に会し、交流する貴重な機会となります。今回のおさらい会では、独奏から三曲物に加え、合奏



Illustration: morimoe

曲もありました。終演後の打ち上げでは芸の事やたわいもない話で盛り上がり、楽しい一日となりました。やはり一つの目標としておさらい会を行うことは良いことだと思えます。今回参加できなかった方も含め一人でも多くのメンバーと共に切磋琢磨していけるおさらい会を継続的にできたらいいなと思います。



◎あとがき◎

アートという言葉の語源を調べてみると、技術、資格、才能という説明に混じって、自然の配置という言葉が出て来る。また藝という漢字の語源を調べると、技、技術、才能、人前で演じるための特別な技という説明がある中に、植物を植えるという言葉がでてくる。「木」「土」「丸」「両手」を添える様(の)の会意文字で、植物に手を添え土に植えることを意味した、とある。

アートにしる、芸術にしる、始まりは何だったのかと想像してみるに、一つには死者を弔う儀式だったのではないかとと思う。それが祭りになり、葬式にもなったといえるかもしれない。その儀式には立体の作りものも必要だっただろう。即興の歌や詩もあつたに違いない。我々人類の祖先(クロマニヨン人)より前に地球に住んでいたネアンデルタール人は死者に花をたむけていたという研究がある。骨を埋葬した場所から花粉が見つかったのだそうだ。ネアンデルタール人とクロマニヨン人は数万年前まで共存していたし、遺伝子も一部受け継いでいるようだ。きっとクロマニヨン人も死者に花をたむけていただろう。生け花のルーツで、仏前の花である立華などは古代の芸術の一つなのかもしれない。

グラフィックデザイナー <http://www.1938.jp> みやはらたかお

